

2011年度(平成23年度)学校評価自己評価表

最終更新日	2011年(平成23年) 10月31日
-------	---------------------

校番 68	福山市立新市小学校
-------	-----------

1 学校教育目標

進んで学び、やさしく、たくましい児童の育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

明日の新市を拓く「生きる力」の育成

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

家庭・地域から信頼される学校、子どもの笑顔があらわれる学校

3 自校の現状分析

- ①平成22年度「全国学力・学習状況調査」では、国語はAB共に約2ポイント、算数もAB共約7ポイント全国平均を下回る結果であったが、「基礎・基本」定着状況調査では、両教科とも約1ポイント県平均を上回った。しかし、国語では「書く」、算数では「図形」の領域に課題が見られた。同質問紙調査においては、重点を置いた取組みにより肯定的評価が、「自分にはよいところがある」の問いでは1ポイント県平均を下回ったものの、「自分の良さは周り人から認められている」の問いでは2.8ポイント県平均を上回った。引き続き総合的な学習の時間の取り組みを通して自己肯定感と学習意欲を高め、生きる力を育む学力をつけていく教育研究を進めていく必要がある。
- ②「言葉の使い方を考えながら話している」の問いでは14.9ポイント肯定的評価が県国平均を下回っている。また、「具体的な例をあげ順序に気をつけながら話している」の問いでは10.5ポイント、「相手や目的に応じた話し方をしている」の問いでは7.6ポイント肯定的評価が県国平均を下回っている。「書く・話す」といった言語活動の充実に取り組み「表現力の育成」を重点的に取り組む必要がある。
- ③新体力テストの結果国県の平均を上回った種目は6月実施では29%で、11月実施では76%になった。しかし、「握力」「走・跳力」に課題がある
- ④学校自己評価など全職員で目的を共有し、力を合わせて取り組めるようになってきている。より一層主任会の活性化を図り、各主任を中核とした機動的な組織体制づくりを進め、組織力の強化を図る必要がある。
- ⑤情報発信はもとより、地域の方を巻き込んだ体験活動の充実と積み重ねにより、地域の方の声や保護者アンケートから学校に対する信頼は高まってきている。引き続き取り組みの強化を図る。

4 研究主題

(1) 研究主題

意欲的な学びから伝え合う力の高まる授業の創造
—体験活動を重視した表現力の育成を通して—

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
国 市	小・中・高等学校道徳教育実践研究事業 教育支援事業(総合的な学習の時間)	2011年度(平成23年度) 2011年度(平成23年度) ～2013年度(平成25年度)

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
① 授業の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習意欲を高め、思考力、活用力をつけるため、総合的な学習の時間の教育研究を通して、授業の質を高める必要がある。 ・「表現力」の育成のために、体験活動と言語活動を関係づけて充実を図る必要がある。 ・主任を中心として、各学年・各部分がより連携を密にして学校運営を行うことで、組織力の質を高める必要がある。
② 表現力の育成	
③ 組織力の強化	

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
	基	準
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(中間) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(中間) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標の達成状況◎ 改善方策
確かな学力	2	授業の質を高める授業計画を立てる	★	新規	総合的な学習の時間のねらいを明確にした授業計画を立て、子どもが主体となる授業をし、基礎学力をつける。	A	◇単元のゴールや1時間毎のねらいを明確にした授業改善を年2回以上全担任が行う。その授業で「単元のゴールと本時のねらいの明確化」「表現力を高める工夫」「問題解決の授業展開の工夫」が出来ていたとする教師の肯定的評価を80%以上にする。	a	□授業改善に取り組んだ授業を全担任が2回実施。各学年の1回目の授業研究での反省を踏まえ、指標に対する各学年の取り組み視点をより明確に具体化したことにより教師の肯定的評価 92.6%達成率 115.8%で、十分に目標を達成できた。「単元のゴールと本時のねらいの明確化」肯定的評価 100%で達成率 125%、「表現力を高める工夫」肯定的評価 100%で達成率 125%。「問題解決に向けた授業展開の工夫」肯定的評価 78%で達成率 97.5%であった。 ○基礎・基本定着状況調査で、国語 81.3%で県平均より 3.3 ポイント市平均より 6.1 ポイント、算数 80.3%で県平均より 3 ポイント市平均より 5.6 ポイント上回っており、基礎学力が着実についてきた。 ◎問題解決的な授業展開の工夫を行うとともに、話し合いの手立て・分かりやすく伝えるポイント・評価等の系統化を図り、学校独自のスタイルを創り、児童の学力を高めていく。
	3	全教科で言語活動を充実させる	★	見直し	「発表名人」を定着させ、表現力をつける。	B	◇全教科・領域で「発表名人」を活用し、「基本的な話型を使って発表できている」と答える児童を75%以上にする。	b	□○教室に話型を掲示し学年ごとに月の重点項目を決め、目標を持たせて取り組んだことにより、「基本的な話型を使って発表できている」肯定的評価 71%達成率 94.6%で概ね目標を達成できた。 ◎表現力を着実に定着させるために、意図的発問や切り返し発問による発表を充実させた授業づくりをする。また、各学年の課題を明確にした毎月の基本的な話型の重点項目の設定と取組みの継続を進める。
豊かな心	3	体験活動を充実させる	★	見直し	「感謝の手紙」「縦割りの活動」等により、相手を思いやる気持ちや感謝する心を育てる。	A	◇真心のこもったお礼の手紙を一人10通以上発送することで、「あたたかい気持ちになった」「出してよかった」と満足した感想を持つ児童を90%以上にする。	a	□○感謝の手紙は現在全校平均 9.16 通発送しており、達成率 91.6%である。手紙を出すことにより「温かい気持ちになった。」「手紙を出してよかった。」という児童の肯定的評価 98%達成率 108%で十分に目標を達成できた。 ◎引き続き体験活動でお世話になっている方を中心に、収穫祭でおもてなしをする等、心を込めたふれ合いを仕組み、相手を思いやる気持ちや感謝する心を育てる。

						◇「読み聞かせ」「縦割りの掃除」等の縦割りの活動を仕組み、みんなと関わり、満足したと感想を持つ児童を90%以上にする。	a	□○縦割りの活動で「満足感を持つことができた。」という児童の肯定的評価は98.5%達成率109%で十分に目標を達成できた。 ◎今後も、メッセージカードを通して、相手のことを思ったり、感謝したりする心を育むとともに、全学年が満足感を得られるような取り組みをする。
3	学校の決まりが守れるようにする	継続	児童の主体的な取り組みを通して、生活規律を身に付けさせる。	B	◇児童会の生活目標に「あいさつ、無言そうじ、時間厳守」の3項目を位置付け、3項目全て90%以上にする。	b	□○毎月児童会目標に位置づけ、各学級で具体的な取り組み方を話し合って実行している。「あいさつ」肯定的評価91.7%で達成率101%、「無言掃除」肯定的評価82%で達成率91.18%、「時間厳守」肯定的評価89%で達成率98.8%であった。3項目とも昨年度より2~4ポイントアップしており、学校のきまりを守ろうとする気持ちが徐々に高まってきている。 ◎毎日の生活のふり返りによる意識付けや、全校の場での評価を取り入れ、達成感や成就感を味わわせていく。また、新市スタンダードを徹底させ、生活習慣の定着と学力向上との関わりを意識した取り組みを継続する。	
健やかな体	3	見直し	「握力」「走・跳力」を高め、体力を向上させる。	A	◇各学年の指定種目を設定して取り組み、新体力テストの全国平均を上回る種目を60%以上にする。	a	□○新体力テスト(6月)の結果、全国平均を上回る種目は79%達成率131.6%で、十分に目標を達成できた。各学年の課題種目を指定種目に設定し取り組みを進めている。 ◎「握力」「上体起こし」「50m走」「ソフトボール投げ」の4種目については、国・県の平均を下回る学年があるので、課題克服に向け、「新市体カトライ」の内容改善や「わくわく遊び」に取り組んでおり、さらなる体力向上を目指す。	
					◇毎日の「新市体カトライ」の実施率を90%以上にする。	a	□○「新市体カトライ」の全学年・学級での着実な実施が図られ、実施率は99.7%達成率110.7%で、十分に目標を達成できた。 ◎新体力テストの課題を受け、内容を改善した「新市体カトライ」に取り組むとともに、大休憩時に「わくわく遊び」を実施して体力向上をめざした外遊びを仕組む。	

			見直し	計画的に食教育を進めることで、望ましい食生活を身につけさせる。	A	◇毎月19日に「食の大切さ」などの食育指導を行い、「嫌いなものも頑張っって食べている」と答える児童を80%以上にする。	a	□○毎月19日を中心として各学級で「食の大切さ」について指導するとともに、随時全校放送を通して食育指導を行った。「嫌いなものも頑張っって食べている。」の児童の肯定的評価は92.8%達成率116%で、十分に目標を達成できた。 ◎全学年取り組んでいる農業体験活動（農作物の栽培や調理、収穫祭等）や、食育指導の充実を図り、児童の食への更なる関心を高める。
教職員の力量ある	3	主任を中心とした組織力を強化させる	★見直し	学校の組織性を高めるために、各主任はミッションに迫るよう実働する。	B	▽毎月1回以上企画委員会・学年主任会を持ち、組織としての取り組みを深め、主任としての満足度を90%以上にする。	b	□○事前に協議内容を周知して、毎月2回企画委員会・学年主任会を実施した。主任としての満足度の肯定的評価は86%達成率96%で、概ね目標を達成できた。「主任会の回数」「担当する部や学年でリーダーシップをとり計画的に推進している。」の肯定的評価100%、「他の部や学年と連携をとっている。」「学校教育の推進役を果たしている。」の肯定的評価88%、「主任会で意見や改善策を出している。」の肯定的評価は1学期末評価より37ポイント上回り50%であった。 ◎主任として学校教育の中核を担い更なる推進役を果たし、ミッションに迫る取組みができるよう、主任同士の連携を密にするとともに、主任会の内容や進行等の工夫をする。
			見直し	学校の情報発信を積極的に行い、保護者との信頼関係を深める。	A	◇学校だよりを毎月1回、学年通信を毎月2回以上発行し、学校への信頼度を93%以上にする。	a	□○学校だよりは毎月1回、学年通信は全学年月平均2回以上発行し、10月末現在で108通発行。一学年月平均3通発行で、達成率150%である。また、学校への信頼度は肯定的評価98.3%達成率105%、「教育活動を信頼している。」の保護者の肯定的評価は92.8%達成率103%で、十分に目標を達成できた。 ◎「児童の様子がよく分かる。」と答えた保護者が92.8%なので、さらに児童の様子がよく伝わるよう、学校・学年通信に効果的に写真や児童の声等を取り入れ計画的に発行していく。また、HP等を活用した取組みも充実させる。
信頼のわが市民から学校	2	教育公務員としての教職員の自覚と使命感をもつ	見直し	学校の情報発信を積極的に行い、保護者との信頼関係を深める。	A	◇学校だよりを毎月1回、学年通信を毎月2回以上発行し、学校への信頼度を93%以上にする。	a	□○学校だよりは毎月1回、学年通信は全学年月平均2回以上発行し、10月末現在で108通発行。一学年月平均3通発行で、達成率150%である。また、学校への信頼度は肯定的評価98.3%達成率105%、「教育活動を信頼している。」の保護者の肯定的評価は92.8%達成率103%で、十分に目標を達成できた。 ◎「児童の様子がよく分かる。」と答えた保護者が92.8%なので、さらに児童の様子がよく伝わるよう、学校・学年通信に効果的に写真や児童の声等を取り入れ計画的に発行していく。また、HP等を活用した取組みも充実させる。
			継続	地域に対して取り組みを宣伝することで、学校への理解者を増やす。	A	▽全学年が「敬老会」や「公民館祭り」「地域の施設訪問」などで学習成果の発表をする。	a	□○全学年計画的に学習成果を発表する場を決め、取進めている。敬老会では1年生が学習成果を発表し、地域から好評を得、学校への理解者を更に増やすことができた。 ◎今後、福祉祭り・公民館祭り等、計画的そって全学年学習成果を発表する。

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)